

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直しつつある」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。観光は、感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	緩やかに持ち直しつつある	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	→
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	→
雇用情勢	感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→

設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
観光	感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	→
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は減益見込み	→
企業の景況感	「上昇」超となっている	「上昇」超となっている	→
住宅建設	弱含んでいる	弱含んでいる	→
公共事業	前年を下回る	前年を下回る	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

スーパー販売は、肉食需要の低下や家計の節約志向の高まりの影響がみられるものの、商品単価の上昇により、前年並みとなっている。コンビニエンスストア販売は、観光地等の店舗が回復傾向にあるなど、緩やかに持ち直している。乗用車販売は、受注状況は好調であるものの、供給面の制約により足踏みの状況にある。ドラッグストア販売は、医薬品が回復傾向にあるなど、前年を上回っている。家電販売は、足下で、これまで生じていた品薄状態が解消されつつあり、持ち直しの動きがみられる。百貨店販売は、衣料品に動きがみられるなど、持ち直しつつある。ホームセンター販売は、DIY用品にみられた巣ごもり需要が落ち着いていることから、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

このように、個人消費は全体として、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 値上げを背景に買上点数が減少しており、「必要なものしか買わない」といった消費者の節約志向や、購入品によって店を使い分ける行動が顕著になっている。(スーパー)
- コロナ禍で不調であった観光地やオフィス街に立地する店舗が回復しており、特に札幌中心部については、各種イベントの開催もあり、好調である。(コンビニエンスストア)
- 通常時は車検の3か月前に買い替えを勧めるが、現在は納期が長期化していることもあり、車検の1年以上前から声掛けしていかないと間に合わない状況である。(乗用車販売店)
- エネルギー価格の上昇に伴う家計の節約志向により、来店頻度の減少などの影響がみられるものの、医薬品が全体を押し上げている。(ドラッグストア)
- 半導体の供給不足から、ドラム式洗濯機などの人気商品で深刻な品不足が続いていたが、9月半ば以降、供給不足は解消してきており、足下では売上が改善している。(家電量販店)
- 感染が拡大した期間においても、特に落ち込むことなく、観光客の姿が多くみられたほか、旅行関連や結婚式などオケージョンに関連する商品の回復傾向が続いている。(百貨店)
- 今夏の感染拡大に関しては、一定数外食を控える顧客がいたと思われるものの、制約がまばなかつたこともあり、過去の感染拡大期ほど売上が落ち込むことはなかった。(飲食サービス業)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

生産活動は、「鉄鋼業」などが増加しているものの、「金属製品」や「食料品」などが減少しており、全体では足踏みの状況にある。

- 当期の生産動向については、札幌市内の中規模マンション及び風力発電関連向けが動き出しており、特に、風力発電は道北を中心にかなりの受注件数がある。先行きは、新幹線や再開発事業等の案件に期待している。(鉄鋼業)
- 当期の生産は、前年度からの大型案件である再開発事業が動いているが、発電向けなどその他の動きが鈍い。受注状況が良くないため、他社受注の下請けも行っており、利幅は低い状況にある。(金属製品)
- サケ・マスの仕入価格が高騰し、販売価格に転嫁したところ、販売数量、生産量ともに前年を下回った。(食料品)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直しつつある」

有効求人倍率は上昇しており、雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

- 新規求人数は、ほとんどの業種で増加した。医療、福祉関係が継続的に増加しているほか、宿泊、飲食サービス業では夏の繁忙期と今後の需要回復を見据え、求人が増加した。(公的機関)
- 月間有効求職者数は、コロナ禍前と比較すると高止まりしている。特に、感染症が落ち着いた時期には、求職活動を再開する動きがみられた。(公的機関)
- 観光需要の回復が想定していた以上であったことから、受け入れ態勢が整いきっておらず、特に従業員不足が深刻である。清掃やフロントで対応できない分については予約制限をかけている。(宿泊業)

■ 設備投資 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、「食料品」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「娯楽業」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。

- 受注が増加しているところ、処理能力を高めるため、現施設の増築を計画している。ただし、供給制約の影響により今年度中の完成が困難となり、一部の計上を翌期に繰り延べている。(食料品)
- 生産能力増強のため製造ラインを増設するほか、これまでは人が目視で行っていたラインの監視をカメラによる自動確認に変更するソフトウェア投資を予定している。(輸送用機械器具)

■ 観光 「感染症の影響が引き続きみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

- 観光は、感染症の影響が引き続きみられるものの、来道客数は前年を上回っており、緩やかに持ち直しつつある。

- 感染者数の急激な増加により、新規予約の鈍化や、キャンセルも見受けられたものの、感染状況を見極めて直前に予約する人が多く、結果的には利用者数が大きく減少することはなかった。特に、お盆期間は盛り上がりを見せ、国内客のみをみると、利用者数はコロナ禍前と同等まで回復した。(宿泊業)
- 新千歳空港の国際定期便の再開後、さらに問い合わせは増えており、いままでほとんどいなかった海外客が少しずつ動き出している。(宿泊業)
- 10月以降は修学旅行のシーズンであるため、団体客の予約が多く入っているほか、全国旅行支援が開始するため期待感がある。(運輸業)

■ 企業収益 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、「食料品」などが減益となっていることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸業、郵便業」が赤字拡大となっていることなどから、全体では減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「「上昇」超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 企業の景況感を当局の法人企業景気予測調査(4年7-9月期)でみると、企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超となっている。

なお、先行きは、4年10-12月期に「下降」超へ転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「弱含んでいる」

- 住宅建設は、貸家、分譲住宅は前年を上回っているものの、持家は前年を下回っており、弱含んでいる。

■ 公共事業 「前年を下回る」

- 公共事業を前払金保証請負金額でみると、第2四半期は、独立行政法人等、北海道が前年を上回っているものの、国、市町村が前年を下回っており、全体では前年を下回っている。

■ 金融 「貸出金残高は前年を上回る」■ 企業倒産 「件数は前年を上回る」■ 消費者物価 「前年を上回る」